

クローズアップ

JAPAN UP CLOSE

15 Lessons on Society and Culture in Japanese

日本事情15

日本語で学ぶ
社会と文化

英訳付き
With English
translations

中・上級向け
Intermediate &
Advanced

佐々木瑞枝

Mizue Sasaki



クローズアップ 日本事情15

JAPAN UP CLOSE
15 Lessons on Society and Culture in Japanese

日本語で学ぶ
社会と文化

英訳付き
With English
translations

中・上級向け
Intermediate &
Advanced

佐々木瑞枝
Mizue Sasaki

著者

佐々木瑞枝

武蔵野大学名誉教授・金沢工業大学客員教授。朝日イブニングニュース・コラムニスト、山口大学教授、横浜国立大学教授、武蔵野大学・大学院教授を経て現職。『会話のほんご』『日本語パワーアップ問題集』（ジヤパントイムズ）、『日本語ってどんな言葉?』（筑摩書房）、『外国語としての日本語』（講談社現代新書）、『日本語を「外」から見る』（小学館）、『日本語ジェンダー辞典』（東京堂出版）、『日本事情』（北星堂書店）、『日本語表現ハンドブックシリーズ』（アルク）ほか、著書多数。また、「大仏様は『にっこり』しています」「春の郊外電車」「雪やこんこ、あられやこんこ」（中学校国語教科書・光村図書）、「『くれる』と『もらう』」（高等学校国語教科書「新国語I」三省堂）など、文部科学省検定教科書にも多数書き下ろしている。

クローズアップ日本事情 15 — 日本語で学ぶ社会と文化

Japan Up Close — 15 Lessons on Society and Culture in Japanese

2017年 4月 5日 初版発行

2021年 6月 5日 第5刷発行

著者：佐々木瑞枝

発行者：伊藤秀樹

発行所：株式会社 ジャパントイムズ出版

〒102-0082 東京都千代田区一番町2-2

一番町第二TGビル 2F

電話 (050) 3646-9500 (出版営業部)

ISBN978-4-7890-1653-7

Copyright © 2017 by Mizue Sasaki

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise, without the prior written permission of the publisher.

First edition: April 2017

5th printing: June 2021

Translations: Umes Corp.

Illustrations: Yaeko Ikeda

Photos: PIXTA / Japan Times

Layout design and typesetting: DEP, Inc.

Cover design: Keiji Terai

Printing: Nikkei Printing Inc.

Published by The Japan Times Publishing, Ltd.

2F Ichibancho Daini TG Bldg., 2-2 Ichibancho, Chiyoda-ku, Tokyo 102-0082, Japan

Phone: 050-3646-9500

Website: <https://jtpublishing.co.jp/>

ISBN978-4-7890-1653-7

Printed in Japan

はじめに



「日本事情」とは何か、これについてはさまざまな議論がありますが、外国人学習者たちからは「楽しい日本事情」のテキストを求める声が聞かれます。

そこでこのテキストでは、「日本事情」で取り上げられることの多い歴史や経済、伝統文化といったテーマに加え、最近の学習者の興味を引くような話題も盛り込み、楽しく学べる工夫をあちこちに施しました。単に日本の社会や文化などの「日本事情」について学んで日本語能力を習得するだけではなく、それぞれの事柄を多角的にとらえ、自国と比較したりしながら身近な話題として疑似体験し、どのようなテーマも「興味をもって学べるように」作成しています。

日本事情を最も効果的に学べるのは、テキストの内容を読み取る「受信型」の学習にとどまらず、読み取った内容を主体的に理解し、自らの意見や見解を「発信」するときです。しかし、書かれた情報を正しく受信し、自分の考えを正しく発信するためには、読解能力だけではなく、文章や段落の中での社会的・文化的背景など、言語外の要素を理解する能力、つまり社会言語学的能力や社会文化的な能力も必要です。

そのため本書には、調査・研究、友達との意見交換やグループディスカッション、クラスでの発表など、自ら積極的にコミュニケーションに参加していける「発信型」のタスクを数多く掲載しました。学習者はそれらのタスクを通して、そのテーマに関する社会的・文化的背景に自然に触れることができるようになっていきます。

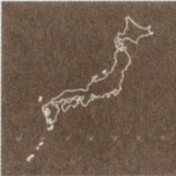
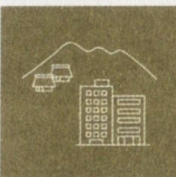
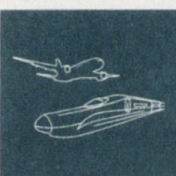
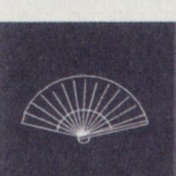
また、専門的な語彙力を獲得したり、各国の文化と比較する思考力を深めたりすることも可能です。どのような分野の話題にも関心を持って取り組むことで、多様な文化の存在を比較する多文化学習につなげることができるでしょう。

日本の社会や文化についての基本的な知識を学び、さらに、タスクで実際に調べたり議論したりする活動にまで発展させること、その過程で、日本社会を学ぶと同時に総合的な日本語能力を育成していくことが、このテキストの最終的な目的です。

本書が「日本事情」にとどまらず、多文化理解を進めるためのアクティブ・ラーニングのテキストとしても、生き生きとした授業が展開できることを願っています。

もくじ CONTENTS

はしがき	3
この本をお使いになる先生へ	6

	Unit 1	日本ってどんな国？ What kind of country is Japan?	13
	Unit 2	都市の暮らし・地方の暮らし としく City life, country life	21
	Unit 3	日本の旅を楽しもう Getting around Japan	29
	Unit 4	いただきます！ Let's eat!	41
	Unit 5	季節を楽しむ年中行事 きせつ Events for enjoying the seasons	53
	Unit 6	知っておきたい日本の歴史 れきし Highlights of Japanese history you should know	65
	Unit 7	伝統文化体験 でんとうぶん か たいけん Experiencing traditional culture	77
	Unit 8	現代文化とポップカルチャー げんだいぶん か Modern culture and pop culture	89



Unit 9

スポーツの楽しみ方

Enjoying sports

97



Unit 10

前進を続ける科学技術

ぜんしん つづ か がく ぎ じゅつ
The march of science and technology

105



Unit 11

地球のためにできること

ち きゅう
Things we can do to save the earth

113



Unit 12

教育と子供たち

きょういく こども
Education and children

121



Unit 13

産業構造と経済

さんぎょうこうぞう けいざい
Industrial structure and economy

129



Unit 14

政治と憲法

せいじ けんぽう
Government and the constitution

137



Unit 15

多文化共生社会を目指して

たぶん かきょうせい めざ
Aiming for a multicultural society

145

巻末付録

かんまつ ふろく

内容確認問題

ないようかくにん

語彙リスト

ごい

英訳

えいやく

153

この本をお使いになる先生へ

1. 本書の構成と特徴

本書は全部で15のユニットで構成されています。日本についての基本的な知識や身近な情報を扱ったユニットから始まり、次第に抽象的・専門的な内容へと進むように並んでいますが、それぞれのユニットは独立しているので、学習者のレベルや興味、コースの長さなどに合わせて、入れ替えたり取捨選択したりして使うこともできます。

ただ、各ユニットが独立しているとは言っても、社会や文化に関することは、どのようなテーマでもお互いに何らかのつながりがあるものです。そのため、全ユニットを学習することでそれぞれの関係性が理解できると、日本の姿がより立体的に浮かび上がってくるのではないのでしょうか。

日本事情を学ぶにあたって、本書には次のような特徴があります。

①従来のテーマを新しい角度から学ぶ

本書では、従来の「日本事情」でよく取り上げられた「日本人の生活」「年中行事」「環境問題」といったテーマも扱っています。ただし、単なる情報紹介ではなく、「都市の暮らし・地方の暮らし」「季節を楽しむ年中行事」「地球のためにできること」といったタイトルで、学習者の興味がわくような視点からトピックを展開しています。

②学習者が体験できるようなテーマを学ぶ

「いただきます!」「日本の旅を楽しもう」「現代文化とポップカルチャー」など、食文化や交通システム、新しい話題などを扱うユニットでは、学習者が実際に体験しながら学べるようなタスクを取り入れています。その他のユニットでも、見学が可能な関連施設を紹介するなど、クラス活動に広がりが出るような情報を掲載しています。

③豊富なタスクでアクティブに学ぶ

各ユニットのタスクは、自分で調べ、友達と話し合い、クラスでのプレゼンテーションにつなげるなど、学習者がアクティブに授業に関われるような工夫がされています。ペアワークやグループディスカッションのタスクは、学習者に合わせて人数や方法を変えて行うこともできます。



④多角的に比較しながら学ぶ

自国と日本、都市と地方、昔と今など、多様な方向から比較するタスクを通して、日本を多角的に知ることができます。留学生と日本人学生が共に学ぶクラスなどでは、日本人にも新しい気づきが生まれる授業になることと思われます。

⑤学習者の背景に合わせて学ぶ

各ユニットの会話文は日本に留学中の学生たちを主人公に展開していますが、本書の内容は普遍的なテーマですので、海外や社会人のクラスでも使っていただけます。会話文も、学習者に合わせて応用しながらロールプレイをしたりすれば、生きた会話を習得できるでしょう。

.....

2. 対象レベルと学習目標

本書は、中級、日本語能力試験のN3以上のレベルを想定しており、N3以上（旧試験2級以上）の漢字を含む語彙にルビを付けています。このレベルの一般的な日本語の教科書には出てこないような専門的な語彙などは、学習者がこのルビを頼りに調べたり、教師が説明したりすることで、理解語彙、さらに使用語彙として獲得していくことができます。

そのため、レベルに合わせた語彙の制限は行わず、ユニットのテーマについて語るときやレポートを書くときに必要とされる語彙力の養成を図っています。特に、本書後半の政治や経済を扱うユニットで出てくるような用語は、大学や大学院を目指す学習者、そして日本の企業で働きたい学習者には必須の語彙だからです。

それぞれのテーマが語られるときに必ず出てくる語彙や表現をそのまま理解することで、学習者が異文化に対する理解を深め、多文化共生社会の中で有意義に生きようという本書のメッセージをアクティブに受信してくれることを期待しています。

3. 各ユニットの構成

それぞれのユニットは、「扉」「Section 1」「Section 2」「扉の関連情報」の4つの内容で構成されています。

●扉

扉には、そのユニットのテーマを象徴するような写真を載せています。例えば「ユニット1：日本ってどんな国？」は杉林、「ユニット2：都市の暮らし・地方の暮らし」は囲炉裏の写真です。これらの「視覚情報」を導入として、学習者は自分が体験したことのない事柄でも、どんな内容を学ぶユニットなのかを想像しながら関心を持ってくれると思います。先生は「知っていますか」の質問の答えを引き出しながら、学習者の興味を高めてください。

●Section 1 と Section 2

Section 1

Section 2

TASK
A

Section 1 は読解教材として、書き言葉の「である体」で書かれています。そのユニットにしか登場しない多彩な語彙があり、学習者は理解語彙の数をどんどん増やしていくと思います。

一方、Section 2 は会話であり、話し言葉で書かれています。ここでの文体は、その人の状況などによって使い分けられていて、学習者は、登場人物たちがその時その時の「役割」によって言葉を使い分けしていることを学べます。

学習者の日本語レベルや授業の目的にもよりますが、Section 1 では、まず教師が文章を読み、語彙の確認などをしながら進めていくといいでしょう。そうすれば、たとえば「天気予報」にしか使われない専門用語なども、予備知識なしでも理解しやすいと思います。

次のSection 2 では、会話の中のどの人物になりたいかを選ばせ、学習者に読ませるのも一つの方法です。内容が理解できたら、学習者にできるだけ自然に読ませて、教師はアクセントやイントネーションの指導をすれば、会話の練習になります。

そしてSection 1・2ともに、文を読んだ後には必ず「タスク」をするように設定されています。その際に参考とするグラフや写真などを通して、学習者はアクティブにタスクに関わり、少しずつ、日本語で書かれた資料の使い方も学習できるように意図されています。

タスクは、自分で何かを調べる、その内容をペアやグループで比べたり話し合ったりする、クラ



スで発表するなど、さまざまなパターンがあります。学習者同士が触発し合いながら自分たちで答えを見出し、自由なイマジネーションを展開しながらお互いの理解を深めていく、そんな展開ができれば最高です。個人で問題を解くのではなく、協働で考える中で見えてくる思考力を日本語で表現する。これこそが、生きた日本語につながるからです。

これらは、最初から最後まで授業で指導する必要はなく、学習者のレベルやコースの時間数に合わせて取捨選択したり、難易度を変えたりと、先生が工夫しながらお使いください。また、統計資料などではできる限り新しいものを掲載していますが、必要に応じて最新の資料を使うとよいでしょう。

●扉の関連情報

各ユニットの最後のページには、「扉」に出てきた写真の「知っていますか」の答えにあたる情報を載せています。たとえばユニット1では、杉林の関連情報として、戦後の復興期に建築資材の需要が高まり、成長の早い杉が植えられたこと、そこから「花粉症」「マスク」などにつながっていきます。また、そのユニットの中に出てきた内容に関する写真なども掲載しています。

日本語レベルが比較的高い学習者の場合は、予習として先にこの最終ページを見てくるように伝え、授業で「扉」の写真を見て「知っていますか」について学習者の答えを聞くところからスタートすることもできます。

4. 巻末付録

巻末には、本文の理解を助ける「内容確認問題」「語彙リスト」「英訳」をまとめています。

内容確認問題

本文の内容が理解できたかを確認するため、各ユニットに1ページずつの確認問題を用意しました。学習者が達成感を得られるよう、問題は本文を読めばわかるものばかりです。すべて本文に書かれていることなので、解答は特に用意していません。